



普段の生活で、人は自分の主観を頼りに社会と対峙している。そして、主体と客
 体の関係はいつでも「一・無限」だ。しかし、そのように客体と対峙しひとり立つ
 人間も、僅かな仕掛けで主体そのものを失ってしまう何とも不安定な存在なの
 ろう。そう、世界はそんな主体と客体が相互作用を繰り返す、普遍的な危うさ
 の上に成り立っているのだ。僕はそんな事を考えていた。

この演劇は、構造が複雑で全体を俯瞰した者は誰ひとりいない。僕もただの芝
 居の小道具になって、あそこで右往左往してただけだったのかも知れない。

芝居が終わって屋外に目をやると、寺山修司のポर्टレイトが「君たち、随分不器
 用だったね」と、ハタハタと笑っているような気がした。

※写真はすべて山口郁生氏(10月4日撮影)。(写真家)



「寺山修司◎劇場美術館
 1935-2008〈私さがし〉と〈世界さがし〉」
 会 期：2008(平成20)年9月13日(土)～
 10月19日(日)

主 催：郡山市立美術館
 特別協力：三沢市寺山修司記念館、九條今日子
 企画協力：テラヤマ・ワールド
 展示協力：演劇実験室◎万有引力

この展覧会期間中、階段ホールにおいて、演劇実験
 室◎万有引力による特別展示「釘と螺旋の算術法、あ
 るいはその起源」が同時開催され、同劇団による
 「100万光年の彼方劇=劇的小道具序説」が10月4日、
 5日に上演された。また9月14日、21日、28日には福
 島市在住の元天井棧敷劇団員で万有引力劇団員の根
 本豊氏による「根本豊ときどき公開ワークショップ&万
 有引力公演体験参加」(報告は6頁)も開催された。ま
 た、会中には寺山修司が残した映像作品のほとんど
 が上映された。

